

2019年春学期の全時間訓練のための
メッセージアウトライン

主題：新約正典の中のすばらしいキリスト

メッセージ 10

人・救い主の昇天と彼の天の務め

聖書：1:78-79. 2:8-14, 32. 7:41-42, 50;10:25-37. 15:3-32. 17:20-24. 24:27, 44-53

- I. 人・救い主の昇天は、創造、肉体と成ること、人の生活、十字架につけられること、復活の過程を通して、神また人として、創造主また被造物として、贖い主、救い主、命を与える霊として、彼の天の職務に就任することであり、神の行政を執行し、神の新約エコノミーを遂行しました——ルカ24:44-53. 使徒2:36. ヘブル2:9. 12:2 :
- II. キリストは彼の昇天において、ハデス（死人がとどめられている所）、地（墮落した人が神に敵対して行動している所）、空中（サタンと彼の暗やみの力が、神に敵対して活動している所）、すべての天（サタンが行くことのできる所）を超越しました——エペソ1:20-21. 4:8-10. ヘブル4:14. 7:26 :
- III. 昇天した、超越しているキリストから、召会に伝達があります（エペソ1:19-23）。彼の超越している伝達は、三一の神の豊富な分与すべてを含んでいます（3-14節）：
 - A. そのようなすべてを含む伝達はわたしたちを、肉体と成って十字架につけられたキリストとの結合へもたらすだけでなく、復活して超越しているキリストとの結合へもたらします。この超越しているキリストとの結合の中で、わたしたちはすべての消極的な事物を越えており、それらすべてを超越しています—— 21-23 節。
 - B. 超越しているキリストの伝達は、三一の神が達成し、到達し、獲得したものを、キリストのからだである召会の中へと注入することであり、すべてのものをキリストの中でかしらにつり上げます—— 10, 19, 22-23 節。
 - C. 超越しているキリストの伝達は、またわたしたちをキリストの十二の身分における天の務めの中へもたらします。これらの身分は、彼が昇天において到達し、獲得したものであり、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給です——ピリピ 1:19 :
 1. 万物の主——使徒 2:36 前半
 2. 神のキリスト—— 36 節後半。
 3. すべての支配者の元首—— 5:31 前半。 .
 4. 救い主—— 31 節後半。
 5. 大祭司——ヘブル 4:14-15. 7:26。
 6. 弁護者—— I ヨハネ 2:1 後半。
 7. とりなす方——ヘブル 7:25。
 8. 新契約の仲保者—— 8:6。
 9. 新契約の保証—— 7:22。

10. 命を与える方——ヨハネ 10:10 後半。
11. 慰め主—— 14:16-17
12. 小羊・神——啓 22:1 後半。
- IV. キリストは昇天における彼の天の務めの中で、わたしたちに仕えていますが、それはご自身を新約のヨベルの実際としてわたしたちの中に分与して、わたしたちに享受させることによってです——ヘブル8:2. ルカ4:18-22 :
- A. キリストは、過去にわたしたちに仕え、現在も依然としてわたしたちに仕えており、将来もわたしたちに仕えてくださいます——マルコ 10:45. ルカ 22:26-27. 12:37. 参照、9:54-56. 19:10。
- B. キリストは昇天における彼の天の務めの中で、命を与える霊としてわたしたちに仕えていますが、それはご自身をわたしたちの中に分与して、わたしたちに経験させ享受させることによってです。これは、ルカによる福音書の以下の各面において啓示されているとおりです :
1. 彼は、高い所から昇る太陽であり、暗やみの中に、また死の影の中に座っている者に輝き、わたしたちの足を平安の道へと導きます—— 1:78-79。
 2. 彼は、墮落した人類の救い主であり、それは神の大いなる喜びのためです—— 2:8-14。
 3. 彼は、異邦人に啓示する光、また神の民イスラエルの栄光です—— 32 節。
 4. 彼は、ご自身を金貸しにたとえています。彼は、すべての債務者を気前よく赦し、彼らから愛を受けます—— 7:41-42, 50。
 5. 彼は、ご自身を良きサマリヤ人として描いています。良きサマリヤ人は、墮落し、律法によって打ちたたかれた罪人を、あわれみをもって世話をし、その霊と神聖な命をもって彼をいやし、彼を召会の中に置きます—— 10:25-37。
 6. 彼は、羊を見いだす方であり、この世の荒野にやって来て、失われた羊を見だし、それを連れ帰ります—— 15:3-32。
 7. 彼は、最上の義の衣です。それは神によって備えられ、帰ってきた罪人が神によって義とされるためです—— 22 節. エレミヤ 23:6. I コリント 1:30。
 8. 彼は、肥えた子牛、すなわち、信じた罪人のために神が備えた命の供給の分であり、彼らの内側に満足を得させます——ルカ 15:23. I コリント 1:9。
 9. 彼は、神の王国であり、種として信者たちの中にまかれ、発展して、神の王国となります。そのような王国は、召会の中の信者たちの内側にあります——ルカ 17:20-24. マルコ 4:3, 14, 26. I ヨハネ 3:9. ローマ 14:17。
 10. 彼は、旧約の中で予言されている方です。彼の死と復活において、信者たちは悔い改めを通して彼を受け入れ、罪の赦しを得ます。旧約全体はキリストの啓示であり、彼は旧約の中心と内容です——ルカ 24:27, 44-47。
- C. 昇天の中に生きることは、わたしたちが絶えず自分の霊の中に生きて、わたしたちの霊を魂から識別することです。わたしたちは霊の中に生きるとき、天におられる昇天したキリストに結合されます——エペソ 2:22. 創 28:12-17. ヨハネ 1:51. 啓 4:1-2. ヘブル 4:12。
- D. わたしたちは、いと高き方の隠れ場の中に隠れること、すなわち、昇天したキリス

トの中に隠れることを学び、彼をわたしたちの住まいとしなければなりません——
詩 91:1. 90:1-11. ヨハネ 16:33。

V. キリストは昇天における彼の天の務めの中で、命を与える霊として、三一の神の豊富をもってわたしたちを造り変えています。それによってわたしたちは、「輿」、すなわち、キリストの行動する器、キリストの乗り物、キリストの「車」となります。それはキリストの行動のためであり、キリストの行動はキリストのからだの中にあり、またキリストのからだのためです——雅3:9-10. 参照、Ⅱコリント2:12-17:

- A. わたしたちは、神聖な三一をもって再建されます。それによって、わたしたちの外側の構造は、復活し昇天したイエスの人性となり、わたしたちの内側の飾りは、主に對するわたしたちの愛となります。
- B. わたしたちのソロモン王としてのキリストは、わたしたちを彼ご自身のための輿とします。わたしたちの責任は、わたしたちの愛を彼にささげ、わたしたち自身を喜んで彼にささげることです——ヨハネ 21:15-17. 詩 110:3。
- C. わたしたちの内なる存在は、「愛で縫い取られる」べきです。主を愛することは、キリストをわたしたちの人性とする領域の中にわたしたちを保ち、彼の愛情が押し迫る中でわたしたちの人性を保護します——雅 3:10. Ⅱコリント 5:14。
- D. わたしたちが個人的な、愛情に満ちた、ひそかな、靈的な方法で主を愛することを通して、わたしたちの天然の存在は取り壊されます。またわたしたちは、キリストの贖いの死（銀で造られた支柱）、神の神聖な性質（金の基）、わたしたちの内側で支配する命を与える霊としてのキリストの王職（紫色の布の座席）をもって、改修されます——参照、ローマ 8:28-29. Ⅱコリント 4:16-18。

VI. キリストは昇天における彼の天の務めの中で、わたしたちの大いなる大祭司として機能しています——ヘブル7:25-26. 8:1-2. 参照、使徒6:4:

- A. 彼は、諸召会をはぐくみ、養って、諸召会を顧みています：
 - 1. 彼は、人性の中で人の子として、燭台である諸召会を顧みます。そして、芯を整えることと、さらに多くの油を加えることによって、諸召会をはぐくみます——啓 1:13. 出 25:38. 30:7. 参照、ゼカリヤ 4:12-14。
 - 2. 彼は、神性の中で彼の神聖な愛をもって（彼の胸にある金の帯によって表徴される）、燭台である諸召会を顧みます。そして、肉体と成ること、包括、強化という三つの時期から成る、彼の神聖で奥義的な務めをもって、諸召会をはぐくみま——啓 1:13. ヨハネ 1:14. Ⅰコリント 15:45 後半. 啓 4:5. 5:6。
- B. 旧約の大祭司が肩の上と心の上に、イスラエルの十二部族の名を担ったのと同じように、わたしたちの大祭司としてのキリストも、彼の肩の上にわたしたちを担い（彼の力）、彼の心の上でわたしたちを支えています（彼の愛）——出 28:9-10, 12, 21, 29。
 - 1. 彼は、「神にかかわる事柄において、あわれみ深い、忠信な大祭司」（ヘブル 2:17）、すなわち、わたしたちの弱さに同情することのできる大祭司です（4:15）。
 - 2. 大祭司としてのキリストはわたしたちを顧みっていますが、彼がどのようにわたしたちを顧みるべきかについて、わたしたちはみな自分自身の考え方や感覚を持っています。多くの時わたしたちは、わたしたちにとって何が最も良いのかを知らず、あるいは、ある事柄がなぜ起こったのかを知りません。大祭司としての主だ

けが、その理由を知っています。そして、わたしたちに対する彼の顧みは、常に積極的です——ローマ 8:28-29。

C. 最終的に、大祭司としてのキリストは、神の必要と權益を顧みています：

1. 神に対するわたしたちの祈りが、神のエコノミーにおける目標、すなわち、キリスト、神の王国、神の家に向かっているとき、神はわたしたちの祈りを聞いてくださいます——列王上 8:48. ダニエル 6:10。
2. わたしたちはだれのために祈ろうとも、わたしたちの祈りは、神の權益、すなわち、地上における神の權益であるキリストと召会を目当てとして、神のエコノミーを成就すべきです——エペソ 5:32. 6:17-18。

D. 昇天における大祭司としてのキリストの天の務めは、新エルサレムにおいて究極的に完成します。新エルサレムは、神性と人性とのミングリングであり、人性における三一の神の拡張、拡大、増し加わり、表現となって、永遠に至り、神のエコノミーの究極的な目標となります——啓 21:2, 9-11。

© 2019 *Living Stream Ministry*